

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072600903		
法人名	有限会社 コスモスケア		
事業所名	グループホーム コスモス今川		
所在地 (電話番号)	福岡県行橋市大字大野井477番地1 (電話)0930-24-9021		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月1日

## 【情報提供票より】(20年10月29日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤4人	非常勤6人 常勤換算5

### (2)建物概要

建物形態	併設(単独)	(新築)改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

### (4)利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	2名		
年齢	平均 85.5歳	最低	78歳	最高	98歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	尾形内科クリニック 行橋グリーン歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑やビニールハウスが点在し、遠くには平尾台の山々が連って、日本の原風景が広がる中、住宅地の一角にグループホーム コスモス今川がある。玄関を一步入ると、利用者と職員が毎月テーマを決め、作成している貼り絵やちぎり絵の大作があり、思わず見とれてしまうくらいのもので、ホームのあらゆる所に飾り付け、季節感や温かい家庭的な雰囲気を演出している。開放的なホームには、家族や地域住民の来訪が多く、交流が活発である。施設長のグループホームに対する熱い思いを全職員が理解し、日々の介護サービスに活かされるように実践している。また、利用者の健康管理は、細心の注意で取り組み、健康で、安全に穏やかな暮らしが出来るように配慮し、家族からの信頼は絶大なものがある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は外部評価結果を見て、一人ひとりが改善に向け、気持ちを新たにしている。前回の改善点は3件あったが、職員の頑張りによってほとんどが改善、または改善に向けた努力の後が見られる。今後は「運営に関する家族からの意見の反映」「人権教育、啓発活動」などをグループホームの中でどのように、取り組んでいくかを検討していくことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、管理者、職員は自己評価の意義を理解し、評価結果を踏まえて、問題解決に向けた工夫がされている。また、職員全員で自己評価作成に取り組み、会議の中で意見を出して、施設長が取りまとめて作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族、区長、3地区の地域包括支援センター職員、施設長、管理者、介護主任などで構成し、介護サービスやホーム運営に関する意見、行事やホームの現状説明など、活発な意見交換会の場になっている。今後は運営推進会議をホーム発展のための重要な会議として位置づけ、問題点を協議し、改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の希望、要望、苦情等を気楽に出してもらうために、玄関に意見箱を設置したり、家族来訪時に職員が親しく懇談し、意見を聴くようにしているが、現実にはホームにすべてお任せで、ほとんど意見が出ない。施設長、管理者、職員が熱意と工夫で、家族と今以上にコミュニケーションをとり、何でも気楽に話せる関係を構築し、運営に関する話など、出やすい雰囲気になるように努力していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の区長が運営推進会議のメンバーで、行事等の情報やお世話をしてもらっている。職員のほとんどが地域住民のため、利用者や職員は地域の一員として、毎日を楽しみ、穏やかに過ごすことが出来ている。また、ホームはいつも開放されているので、家族や地域住民の来訪が多く、行った来訪の活発な交流が行われている。今後は、グループホームコスモス今川の介護サービスに関する技術の蓄積を活かし、介護相談事業などを実施し、地域から信頼されるホームとして、活動していくことを期待する。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流、ふれあいを大切に、家庭的な環境のもと、その人らしい生活を支えるための支援を理念の柱としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、ミーティングの時に職員全員で理念を唱和し確認することによって具体的なケアに結び付けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りには毎年積極的に参加し、歓迎されている。また、利用者の家族、職員が地域住民であることから、ホーム主催の芋ほり、餅つきなど地域との交流もスムーズに行われている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み施設長がまとめて作成している。外部評価の意義を全職員が理解し、結果についてもミーティングなどで報告し改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、区長、地域包括支援センター、ホームの職員など幅広い立場の人が参加している。議題としては、活動報告などのほか、参加メンバーからの質問、意見を受け、双方向的な会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設見学を受け入れたりと、地域生き生きネットに参加することで、地域の人々と情報交換もでき、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、この制度の該当者はいないが、管理者や職員は制度を理解し、資料やパンフレットを常備し、必要ときに支援できる体制が整っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回支払いのため家族が来訪される時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を報告している。また、ホーム便りを作成し行事などの写真を盛り込みながらわかりやすくホームの様子を伝えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情、ご意見箱を設置し、家族等が意見、不満、苦情を出しやすい雰囲気作りに努めている。	○	家族会はまだない。何とか家族同士で話しあう場面を作れるよう工夫し、家族の意見や苦情を積極的に聴きとり、ホーム運営に反映することが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は3年以上なく、利用者や職員は家族の一員のような強い信頼関係を築いている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に関しては、年齢、性別に制限はなく、介護に対する気持ち(優しく思いやりのある人)を重視している。職員の詰め所を設けたり、職員親睦会を行うなど、職員がそれぞれの特技を活かしながら生き生きと働けるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	利用者がその人らしく過ごせるよう、思いやりの心を大切に支援している。	○	運営推進会議を利用したり、ホーム便りをいろいろなところに配るなど、より積極的な啓発活動が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多くの職員が研修を受講できるようにしている。また、それらの研修報告は内部研修で発表してもらうことで全職員が共有し、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築グループホーム連絡協議会に加入し、2ヶ月に1回会議に参加し、情報交換、意見交換、相互訪問など、サービスの質を向上させるための交流を深めている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中体験入居をしてもらい、職員などなじみの関係を作り、利用者や家族に安心、納得のうえの入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から多くのことを学びながら、家族の一員として共に暮らし支えあう関係が出来ている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での声掛けや見守りで、利用者の思いや意向の把握に努めている。勤務年数の長い職員が多いため一人ひとりの利用者の性格を把握できているため、意向の表出が難しい利用者の思いにも寄り添うことができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日常の関わりのなかで、思いや意見を聞き、課題を見つけ、家族、医師、職員の意見を出し合い、介護計画の作成に活かしている。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月毎に見直しを行っている。また、状況の変化に応じて本人、家族、医師、職員で相談し、その都度介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、通院、入院見舞いなど、利用者、家族の要望に応じた支援を行っている。その他、梅、桜、菖蒲、コスモス、ひまわりなどの見学を利用者の状態に合わせて実施している。また、地域との合同の行事として陶芸、ピアノ教室、カラオケなど、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、緊急時にはホーム提携病院で対応し、月2回医師、看護師の往診もあり、医療体制は整っている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師と話し合う機会を作り、できるだけ家族の意向に応じていけるよう、職員が連携し、終末期の支援に向けてとり取り組んでいる。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、相手を敬う気持ちで接している。また、プライバシーの保護の徹底に努めている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し、利用者のペースを大切にしながら支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に料理作りや配膳、後片付けを行っている。笑い声のある、穏やかな食事風景である。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、月、水、金が入浴日であるが、他の日は利用者の入浴希望を取り入れ、利用者の希望に沿った入浴支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	多種多様なレクリエーション(創作活動、運動、テレビゲーム、計算、生け花など)、地域行事への参加、陶芸、ピアノ教室、カラオケ、料理作り、配膳、片付け、洗濯、畑仕事、花壇の手入れなど、一人ひとりの身体機能に合わせて役割、楽しみごとの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、畑仕事、花壇の水やりなど、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。夜勤者が一人になる時間帯だけ鍵をかけるようにしている。また、職員は利用者の癖や傾向を掴んで見守り支援している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、消防、非難訓練を実施している。地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		災害に備えた非常用食料、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、食事の摂取量、水分摂取量のチェック表をつけ、利用者一人ひとりの状態を把握し細やかに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間の一角の畳の間は、ちょっと腰掛けたり洗濯物をたたんだりの作業もでき、家庭的な居心地の良い空間となっている。また、利用者と職員の合作である壁面創作貼り絵、ちぎり絵は、干支、季節を表した見事な作品で、ホームの雰囲気をも明るく居心地のよいものにしているとともに、訪れる人を和ませている。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、馴染みのものを持ち込み、居心地よく落ち着いて暮らせる雰囲気になっている。		